

弓道ながの

第77号

発行：長野県弓道連盟
会長 松島貞治
〒399-1801
下伊那郡泰阜村4139
TEL0260(26)2628
編集：県弓連
印刷：成進社

巻頭言

会長職という重責を引き受けて

長野県弓道連盟会長 松島貞治



伝統ある長野県弓道連盟の会長に選任されました。会長ができるような器ではないことは分かっています。

が二〇二八年の国体弓道競技が飯田市で開催され、その準備も考え引き受けることにいたしました。まず、外圍会長はじめ前役員の皆様のご努力に改めて敬意を表します。今後ともご指導、ご支援をよろしく願います。

泰阜村の理事者時代、長野県経営者協会が主催する企業の幹部研修「ビジネスリーダー育成をめざすワークショップ」(毎年一回)が村を会場に「その地域とのかかわり」というテーマで

開催されてきました。一泊二日、十五名前後の参加で夜は懇親会、昼間意見交換会。十年ほど続いています。最近、県庁はじめ上伊那の市町村からも参加がありました。座談会で、私が行政現場での企業との関わり、また苦労していることなど話して、参加者の長野県を代表する企業、役所の幹部と意見交換をします。その時に、いつも話題にしたのが、市町村長も含めどのようなリーダーがいいと思いますか、です。最近、リーダーが「ワンマン型」と「調整型」に大別されます。自分の場合、同僚からは「ワンマン型」と見られていたようですが、自分では違うと思っています。ただ、住民投票型の施策決定がよくないと思っていて反対が多くてもやろうとする決定がけっこ

うありワンマンに見えたのではと思います。参加者に、どのようなリーダーがいいと思いますか、またどんなリーダー像をお持ちですか、またご自身がリーダーになったら、と聞きます。それぞれ考え方をお持ちです。乱世、非常時にはワンマンが、という方が多いようです。リーダー像も時代とともに変わっていくと感じています。いま一つ、会社、役所等がもつとも力を発揮できる組織の在り方は、というテーマです。役所の場合、年功序列での人事、縦割りの弊害がいつも言われます。私もいろいろやってみました。これがベストの組織体制、というものはない、これが結論です。結局最後は、働く人の感度がよく、気配りができれば縦割りの弊害も出ないということです。民間では、若くして管理的な立場になるケースも多いのですが、年上の、しかも経験年数の長い人を部下に持つと大変という話も聞きます。うまくいっているケースは、やはりその人の持つ良き個性が発揮されている場合です。やはり「人」で、弓道でいえば射品、射格の向上を目指すということでしょうか。私にもつとも足りないところ。これから、長野県弓道連盟にどのようなリーダーが望まれるのか、また、どのような組織体制がいいのか、と考

えています。令和三年度は、すでに執行体制も事業も決まり、まずは、それに沿い事業を進めながら考えたいと思います。コロナ禍で役員の間でも、弓士同士でも意見交換をする時間もなくなりました。それでもコロナ感染症対策もしながら明日の弓道界を議論することを大事にしていこうと思います。皆様一人ひとりのご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



冬の泰阜弓道場

退任のあいさつ

人間到る處青山有り

長野県弓道連盟名誉会長 外蘭 公毅

最後はこの題名にしようと取っておきました。「男児志を立てて郷関を出ず」に始まる釋月性の七言絶句「題壁」の結句です。男児たるもの志を立てて故郷を出たからには骨を埋める所は何も祖先の墓地でなくてもよい。人が活動する場所はどこにでもある、という内容です。

私はこのような大それた気持ちで五十二年前に故郷鹿角島を後にしたつもりはない。就職した企業が信州にあったというだけのことです。私が県弓連の会長を引き受けるとき、既に五十年近く長野県に住んでいたので十分長野県人と思っていました。が、地盤、血盤のないよそ者であることを懸念された方もおられたようです。

私が勤務していた企業は将に信州の企業で、従って血縁、地縁、出身校、ゴルフなど趣味の「関」がありました。そういうことが嫌いと言うより疎くてもまったく苦手でした。弓も特定の師を持つことをしませんでした。好

きなようにやりたかっただけの我儘に過ぎません。だから仕事仲間を弓に誘うことはなかったです。弓の世界まで仕事の関係を引きずるのは勘弁して欲しいという気持ちでした。このことは、今となっては勤労者大会参加を奨励する立場上、深く反省しています。

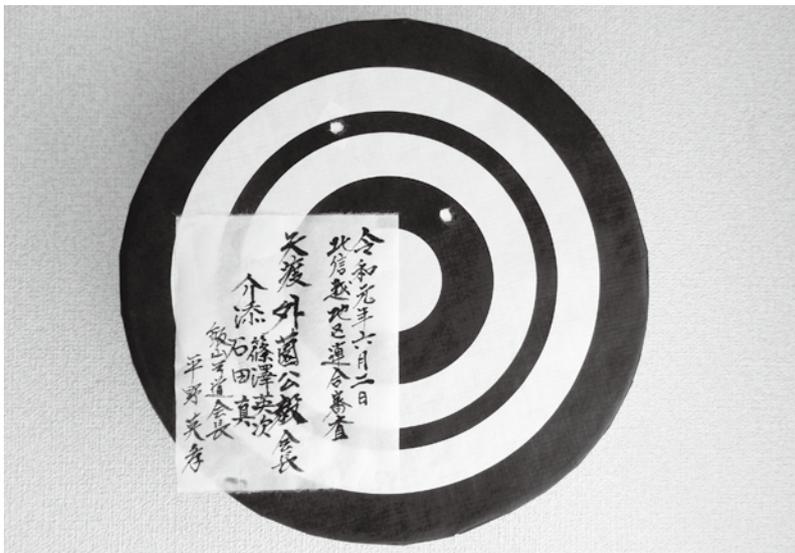
六年間会長をやっていて、こんな時親戚や先輩、同輩、後輩がいてくれたら助かるなと思う時が正直ありました。そのことを長年泰阜村の村長をやっておられた松島貞治さんに話したことがあります。彼は「外蘭さん、長野県はしがらみの強い社会だよ」としみじみと言われて本当に気持ちが鎮まったのを覚えています。

しかし弓を通じて何物にも代えがたい素晴らしい多くの知己を得ました。国体に長く携わっていた関係で若手の発掘、育成には力を入れたつもりです。私は国体選手としては、選考していたいただいた先生方の期待に

まったく応えられない肉体的にも精神的にも弱い選手だったからです。何としても恩返ししたいという一心でした。素晴らしい選手に巡り合えました。今や予選通過は当然となってきました。どうか常に若手の育成に意を注いでください。

役員、部員、会員の皆様、そして事務局スタッフ、大勢の方に支えてもらいました。紙面をお借りして感謝申し上げます。飯山の道場は私にとっては相性がよく、矢渡や演武では珍しく中りました。平野先生の乗せ方が上手なのです。地理的に北信越連合会の審査会、講習会は必ずと言っていいほど使わせていただきました。平野先生はじめ飯山支部の皆様には大変お世話になりました。平野先生の友情は生涯忘れません。

他にも長野運動公園、松本市弓道場はどうしても使用回数が多くなりました。親身にご協力ご支援いただいたことにお礼を申し上げます。長野県弓道連盟の益々の発展と会員の皆様のご健勝をお祈りいたします。



介添 篠澤英次 石田 真
北信越連合審査会(飯山)の翌日、平野先生から宅急便で届きました。私の唯一自慢のものです。

退任にあたって

中信地区担当前副会長 寺島 信夫



副会長としての任期の後半はコロナ対応で終わってしまいました。

私は、広報部と審査部を担当して

いました。広報部は、全ての行事が中止となり掲載する記事が少なく原稿依頼もまま成らない中にも関わらず年間発行していただきました。荒川広報部長以下広報部の皆様の努力に感謝いたします。審査部においては、新任の篠澤部長をはじめ審査部員の皆様のおかげで無事審査をやり遂げる事ができました。会員より厳しい指導、指摘もありましたが、それも参考にして活動をしてきました。

度重なる審査内容の変更や中止、直前での変更、未経験な審査方法への対応で大変でした。特に、ビデオ審査では学校単位で審査表を作成するシステムは無く審査資料などは全て手作業でした。資料作成の担当部員は有休取得、徹夜の対応になりました。

コロナ対策においては「3.新型コロナウイルス感染症防止対策に関する地方審査会事業運営ガイドライン」をよく理解して各支部の審査部員と主管支部の会員

がそれぞれの道場の環境に合わせるための工夫をしていただき、皆様の努力で素晴らしい審査会場を設営していただきました。有難うございます。また競技部が支部対抗戦をした時の運用を審査部は参考にしましたので、他部も競技部、審査部を参考にしたいと思っています。

今後は、コロナウイルスに対して共通の危機意識が必要だと感じました。どの部も感染対策はガイドラインに沿って同様の方法でないと意味がないと思います。感染は弓道界だけでなく関係のない一般社会に対して加害者にも被害者にもなります。その時、ガイドラインを守っていたのが重要な点になります。最悪の場合、道場内でコロナ感染が起これば、該当担当者への責任、施設は使用禁止となり施設全館噴霧消毒をし、一般の施設利用者にも借用した施設にも迷惑が掛かる事になります。コロナ禍は来年の二月までは続くと言われています。経験を生かして頑張っていたきたいと思います。

任期中は、弓道と関係無い事で忙しかつたのですが、良い経験をさせていただきました。今後、皆様の活躍を祈念して、退任の挨拶とさせていただきます。

令和3年度役員決定!!

令和3年度評議員会が2月28日に本市勤労者福祉センターで開催されました。

新型コロナウイルスの影響で、令和2年度は事業計画の見直しを余儀なくされ、競技会、審査会等新たな枠組みになりました。本年度も同様、事業計画は手探りだった昨年度の反省を活かし、支部長からは各支部の実情に合わせて運用の要求があるなど、活発な意見が交わされました。

また、本年は役員改選の年にあたり、3期6年会長を務めた外園公毅先生が名誉会長に、新会長には松島貞治先生の就任を、評議員の承認を以って決定いたしました。理事1名、常任理事2名の交代がありました。役員はほとんどが留任、令和3年度の役員も決定し、新体制でのスタートとなりました。



役員名簿(令和3年度)

名誉会長	外園 公毅
会長	松島 貞治
副会長	北嶋 晋
理事長	山浦 博
常任理事	奥山 誠治
	山田 雅亮
	八角 裕之
	湯澤 秀雄
	新津 一夫
	永藤 聡
	篠澤 英次
	内山 喜照
	中山 光康
	中田 美千
	高砂 健司
	加藤 修平
理事	宮坂 博之
	細田 尚
	押金 孝
	飯田 秀樹
	深澤 健二
	原 富子
	上條 寛
	飯塚 邦洋
	辰野 正雄
監事	樋口 浩昭
	松島 貞治
全弓連理事	大久保秀雄
県スポ協評議員	杉田 博
	土川 俊市
	百瀬 正
	湯澤 秀雄
事務局長	
	県弓連会長

令和三年度始動!



総務部長
中山 光康

新年度事業に向けて

この度、総務部長を仰せつかりました中山光康と申します。最初に赴任した高校で弓道部の顧問となったことが縁で弓道に関わり、気づけば三十数年が経ちました。年数だけは長くなりましたが高校弓道以外の関わりは多くなく、総務部の仕事も全貌がまだ分からない状況です。未熟な若輩者ですが精一杯努めていく所存ですのでよろしくお願いいたします。

さて、新年度の事業計画が二月二十八日の評議員会にて承認されました。新しい役員体制で令和三年度の事業を進めていきます。昨年度は、コロナウイルス感染症拡大のために、審査・大会が殆どできないような状況でしたが、本年度は規模縮小

であったり、また中高校生はビデオ審査のみであったりと不自由はあるものの、審査・大会が開催されていく予定です。七段までの臨時中央審査も六月に長野市で開催され、北信越地区ではもう二回実施されます。他地区での受審はできないですが多くの方にチャレンジしていただければと思います。また、八月には五年度ぶりに長野県で開催される北信越国体が県営飯田弓道場で行われます。また、昨年度は開催できなかった伝達講習会も本年度は開催される予定です。

コロナウイルス感染症はまだまだ収束といえる状況ではありません。行事に参加される個々の皆様方の感染症対策も大切であると思います。クラスターの発生のない行事を積み重ねていけたらと考えますので、よろしくお願いいたします。

話は変わりますが、長野県弓道連盟倫理規定が評議員会で認められ四月より実施となります。ある意味当たり前前のことではありますが、各種ハラスメントをしないとか、そう

いったことを規定として明文化する必要のある時代です。自分自身もそうですが、改めて日々の言動など問題がないか振り返ってみることも必要であると思います。

最後になりますが、総務部に様々な事柄について気楽にご連絡いただきたいと思えます。即答はできないこともあるかもしれませんが、できる限り対応していきたいと思えます。



指導部長
新津 一夫

コロナ禍での令和三年度

令和二年度を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が、全世界的に蔓延して、日本でも昨年、緊急事態宣言が出され、道場の使用ができない時期もあった。

長野市の場合には道場が閉鎖になったため、道場で弓を引くことができなかつた。道場が再開されるまで、諦めて家の仕事に専念できた事は良

弓道合宿予約随時受付中!

野辺山洗心弓道場

- 近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)
- 12人立2ヶ所
- 遠的道場 1ヶ所

帝産ロッチ

〒384-1305
長野県南佐久郡南牧村野辺山1003
HP : <http://www.teisanlodge.com/>
ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

かったが、県連の行事が全て延期又は中止などで、計画の見直しをしなければならぬ結果になった。

特に指導部としてネックになったのは、講習会には、多人数が集まってくるということだった。

全弓連・県スポ協から、とにかく感染しない、させないようにと、次々にメールで通達が届く、このような状況では万が一の事を考えると、県連として実施にはなかなか踏みきれなかったため、講習会が開催できなかった。

では、令和三年度はどうなるのだろうか？

今のところ、五月九日に上越市で全弓連の講習会が計画されている。長野県から教士六段以上六名参加が予定されている(午前中三名・午後三名)。コロナウイルス感染症の、第三波が少し下火になっているので実施されることを願うばかりです。

実施されれば、指導部としては予定どおり伝達講習会に向けて計画を進めたいと思います。

中央審査も今年は特別臨時中央審査が北信越ブロックで開催されます。錬士・教士・六段・七段が身近な所で受審できるので、講習会の実施で少しでも多くの方の合格へのお手伝いができればいいと考えています。

す。

とにかくコロナウイルス感染症が第四波にならない事、またワクチン接種の効果がどれくらい期待ができるのか解らない現実ではあるが、その効果を期待しつつ長野県弓道連盟の各々が無事に一年乗り切れればいいと思っています。



強化部長
永藤 聡

強化部長を再び拜命して

私は、外園先生が長野県弓道連盟の会長に就かれた時に強化部長を仰せつかり、三期六年間を過ごさせていただきました。その六年目の昨年度は、年度が始まる前から新型コロナウイルスに翻弄された一年となってしまいました。鹿兒島県で行われるはずだった本県も延期となり、大会への参加も無く中途半端のまま任期を終えた気持ちでした。本年度、松島先生が県弓連会長に就任され、再度強化部長を仰せつかり今まで以

上に身の引き締まる思いです。今はなんとかこの難局を乗り切り、なんらかの成果を上げたいという気持ち一杯です。必死で二年間を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

さて本年度も新しい強化部員を迎えました。大変だとは思いますが、これからの二年間の活躍を期待しております。また昨年度までにて強化部を退任された皆様方にはたいへん感謝しております。いままでも本当にありがとうございました。これから皆様の強化を引き継ぎまた発展させて、七年後の長野国体が迎えられるよう、強化部一丸となって進んでいきたいと考えております。ご期待ください。

つぎに昨年度の成年の選手について感じたことを述べます。昨年度の一年間は他県との対戦もなく、無為な一年を過ごした県も多かったと思います。しかし本県は、同じく大変な状況ではあったのですが、決して無為な一年では無かったと感じております。一次選考会を通過した選手等で合宿を行ったのですが、例年ですと、選考会や北信越国体そして本県国体が目の前にあり、その時点の射を壊さぬようにすることが、本意ではないのですが一番となってしまうことがありました。昨年度は国体が

延期になったため、目の前の大会に左右されずにいつもより踏み込んだ射技指導ができました。各選手の射への理解もいっそう深まり、かなりの上達につながったと思います。これは、射技のレベルが高い本県だから可能だったことで、他県と同じことができる県はほとんど無いと思います。まあ、おそらくここには身びいきがかなり入っているのでしょうか、私としては、今年他県より今まで以上にレベルが上になっているであろうという印象です。

そして少年については、本年度以降考えていることがあります。まだ発表できる段階では無いのでここでは申しませんが、とにかく高校生が長野県の弓道の未来を決めるのだと確信しております。ですから活躍を期待しますし、強化部がその一助になればと思います。これについてもご期待ください。

コロナはまだ収束の様子は見られません。本年度も県内各道場にはお世話になります。ここに、今までのご協力に感謝し、これからも変わらぬご理解をよろしくお願い申し上げます。



審査部長
篠澤 英次

令和三年度に向けて

昨年は、全国的な新型コロナウイルスの発生に伴い、スポーツ界をはじめとする各種イベントは、ことごとく計画の見直しや中止を余儀なくされた年となりました。これは長野県弓道連盟においても例外ではありませんでした。この状況の中、コロナ対応での県内審査会を開催することができませんでしたのも、関係各位のご協力によるものであり、心より感謝し御礼を申し上げます。

さて、本年度の審査事業につきましては、昨年の秋に開催いたしました審査会と同様の様式により、春秋・秋期に開催を予定しております。本年度もしっかりとコロナウイルス感染症防止対策をしての審査会を行います。

審査会の予定は次の通りです。

○中学・高校生のビデオ審査会(式段以下)

各地区で開催予定です。

○一般四段以下の審査会

東北信・中南信の各地区で開催予定です。こちらは、併願可能な開催日程としております。

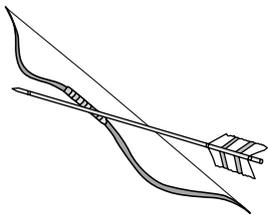
○一般五段の審査会

松本市弓道場にて開催予定です。

なお、審査会開催に際しては、開催時期のコロナ感染状況により、急遽会場変更や中止に至る可能性も考えられますので、受審の際は最新情報をご確認ください(変更の際は、県弓連ホームページにてお知らせいたします)。

また、審査会の開催運営に関しましては、昨年度の反省を活かしながら、開催準備を進めてまいります。

最後になりますが、今年度も受審者の皆様が安全かつ集中して受審できる環境を整えていくよう審査部員一同考えております。関係各位には、昨年同様大変お世話になります。どうぞご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



競技部長
内山 喜照

昨年度の反省と 新事業年度の計画

令和二年度には五つの競技会を計画しましたが、四つの競技会は中止とさせていただきます。準備にご尽力いただいた役員の皆様、参加を楽しみにしていた選手の皆様には申し訳なく思います。全国大会も軒並み中止となり、安全を優先しての対応であったことをご理解いただけて幸いです。

賛否両論がありました。九月の支部対抗は感染症対策を行ったうえで、規模を縮小して実施させていただきました。幸いこの競技会での感染拡大はなく、変則的な大会開催と対策にご協力いただいた皆様に改めて感謝します。苦渋の決断で参加を見合わせた支部、選手のみなさまの意思も尊重します。

令和三年度も感染症対策をしながらの競技会運用を考えております。本原稿執筆時点(二月下旬)の見通しでは、県内希望者全員にワクチン接種

が行き渡るのは夏以降とみられています。安全が確保されるまでは、大会の縮小、種別の時間差開催、密にならない工夫などを行いながらの競技会を計画しています。直前に実施方法が変更になる可能性もあります。リスクがなくなるわけではないので、引き続き会員各位の判断で参加可否を考えていただければと思います。競技会の内容としては、令和二年度までに実施していた五つの競技会に加え、五月に実施されていた全日本弓道大会(京都大会)の通信制大会を長野運動公園弓道場で実施する予定です。こちらは有段者、錬士、教士の種別ごとに演武と決勝射語を行い、後日全国での集計により入賞が決まるといふ仕組みです。

また三月には試験的に全国オンライン弓道大会が催され、ビデオ会議システムで中継しながら対戦をする試みに長野県も参加します。YouTubeでの公開もされるようです。再び多くの弓士が集まった競技会で、熱戦が繰り広げられる日が来てほしいと思います。ITを使った新しい楽しみ方も出てきそうです。

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。



ジュニア部長
高砂 健司

コロナ禍での高校弓道

四月からジュニア部長を仰せつかりました高砂健司と申します。微力ながら、長野県弓道界の発展のために力を尽くしてゆきたいと思っております。よろしくお願いたします。

こいつはいつた誰だ、と疑問に思われる方も多いでしょうから少々自己紹介をさせていただきます。私は現在、松本美須ヶ丘高等学校で弓道部の顧問をしており、長野県高等学校体育連盟の弓道専門部の委員長をしております。教員として二校目の諏訪二葉高等学校で、弓道部の顧問をさせていただいた北嶋晋先生から弓道を教えていただいたのがこの道に携わったきっかけです。それ以来豊科、塩尻、明科、松本と転動しましたが、その間ずっと高校生と一緒に弓を引いて現在に至っています。

さて、昨年度は生活の全てが新型コロナウイルスに振り回された年でした。多くの弓士の皆様も講習会や大会の中止等で困惑されたことと思いますが、

中高生たちにとっても大変な年でした。全国中学生弓道大会や全国高等学校総合体育大会(インターハイ)も中止され、それに伴い県大会や地区大会も中止されてしまいました。三年生にとって高校のクラブ活動を締めくくる最大の目標が突然奪われてしまいました。ただ代替大会が各地区で行われたことだけがわずかな救いでした。秋の新人戦はコロナ感染防止対策をした上で規模を縮小して行うことができましたが、その後も以前と同様にはクラブ活動はできません。しかし四、五月の一斉休校を経て、制限がある中でも弓が引けることのありがたさを改めて感じた生徒も多かったと思います。

今年度も新型コロナウイルス感染防止対策を充分した上での活動となるでしょう。審査も高校生は昨年同様ビデオ審査だと聞いています。新型コロナウイルスの流行状況いかんですが、昨年のようなインターハイの中止だけは避けて欲しい。僥越ではありませんが、くれぐれもクラブ活動で感染が拡大するようないかなることに各校の顧問、指導者の先生方は充分留意して指導に当たってもらいたいと思っています。



広報部長
中田 美千

「弓道ながの」のあり方

今年度より荒川部長から広報部を引き継ぐこととなりました、松本支部 中田と申します。どうぞよろしくお願申し上げます。

私は、杉田先生が部長の折に四年、荒川部長と六年、広報部員として主に編集作業に携わってまいりました。まさかこのような重責を担うことになるうとは思いませんでしたが、精一杯務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願いたします。

「弓道ながの」は年四回10ページで発行しております。昨年度は事業計画が吹っ飛んだ中で、減ページでの発行とはなりましたが、皆様のお力添えを御礼して、何とか乗り切ることができました。大会も中央審査も講習会も無くなり、出向くこともままならない状況で、これまでと同じでは原稿が集まらず、原稿が無ければ広報紙は成り立たない。そんな当たり前のことを改めて痛感いたしました。

本年度も、いつ何が起るかは予想ができません。ですが基本的には、分かりやすく読みやすい紙面を心掛け、「歴史に残す」そのことを念頭に置きまして、皆様のお手元に間違いなく届きますよう、知恵を絞ってまいりますと存じます。どうぞ、どんなことでもネタになり得ますことがございましたら、お声がけくださいますようお願い申し上げます。

又、ホームページに関しましては、まだまだ可能性があると考えております。見やすさと、リアルタイムに皆様の欲しい情報を取り出せるツールとなりますよう、担当者とも相談しながら、フレッシュな情報を提供したいと存じます。「こんな情報が欲しい」等ございましたらこちらもお声がけくださいませ。

冒頭申し上げました通り、私があるような任に就こうとは思いません。もともとよりその器にないことは重々承知いたしております。ですが、拜命をお受けしました以上、全力で臨みたいと存じます。どうぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和二年度審査会(コロナ禍での審査会)

審査部長 篠澤 英次

令和二年三月に開催された評議員会は、過去に例のない会合となりました。

本来評議員会は事前に計画した翌年度の事業計画を審議し決定する場なのですが、同月に全弓連より行事の中止措置指令があり、長野県弓道連盟としましても、急遽四月の行事については全面中止を決定せざるを得なく、その場でそれを通達し、四月開催予定の審査会についても、会長を中心に各地区の支部長と協議していただき、約一ヶ月後の審査会開催に向けて計画を練り直すという異例の事態を経て、本年度の審査会をスタートしたのでした。

しかし、その後、新型コロナウイルスの感染は日を追うごとに拡大し、日本全土に蔓延し、審査会のみならず各種大会や講習会など全ての事業開催が中止という異常事態となりました。再開の見込みも立たず、開催日程は未定のまま、先の見えない不安な状態が長く続きました。

九月に入りようやく全弓連から十月以降の弓道事業に関する通達が有



松本会場にて

りました。審査会に関しては、地方審査会のみで開催が認められ、受審者は県連所属者という制限はあるものの、審査会を開催できる運びとなりました。

審査は、中学生・高校生の学生式段以下審査会と一般審査会に分類し、学生審査では、行射映像を提出するビデオ審査方式に、一般審査では五

段及び四段以下審査に分かれ、新型コロナウイルス感染症防止対策の規定に則って、除菌や滞在時間等厳格に定めた進行スケジュールに沿って行いました。

この、新型コロナウイルス感染症防止対策に関する地方審査会事業運営ガイドラインの主な内容については次の通りです。

- ・3密にならない対策をする。
- ・開会式、矢渡・演武、学科試験は行わない。
- ・会場の人数制限管理を行う。
- ・運営における詳細な感染防止策を実施する。
- ・関係者への非接触体温測定を実施する。
- ・関係者へのマスク着用を徹底する。
- ・合格発表は後日の通達とする。
- ・などです。

受審された方や審査関係者の方は、今までの審査会との違いに戸惑われたかと思います。

審査部では、先ず審査会開催に向けて、それぞれの審査会毎にコロナ対策の検討及び準備を実施しました。過去の実施事例もなく、変化点もありに多岐に渡る内容であったため、開催までの限られた時間の中で県弓連独自のルール策定には大変苦労しましたが、審査開催までに間に合わ



感染対策

せることができ、千百名を超える皆さんが受審できたことを大変喜ばしく思います。これも受審者の皆様及び審査会関係各位のご理解とご協力によるものと深く感謝申し上げます。また、今回審査会開催にあたり様々な反省点もありました。この点を改善し、次年度の開催に生かしていきたいと思えます。

最後になりますが、令和三年度も新型コロナウイルス感染症防止に対応した審査会を予定しています。関係各位におかれましては、今まで同様にお力添えを賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。

私と弓道

上小支部 四段 遠藤 広一

私が弓道を始める切掛となったのは子供の頃に自分で弓矢を作り遊んでいたのが始まりだったのでないかと思っています。

いつか本物の弓を引いてみたいと思いつながら時は過ぎてしまい、五十代になった頃自分もこれから何かを始めようと思いつ、その時に思い出したのが弓でした。

丸子公園の所に道場があったのを思い出し、旧丸子町の体育館に問い合わせをしたところ、五月より丸子の道場で弓道教室があるので入って下さいと案内をいただき、弓道を始める事ができました。やり始めてみると自分の思い描いているようにはいかず、注意された事を思いながらすると、他の事が疎かになり大変でした。また審査の間にでの跪坐の仕方も教わっていないのに、その当時弓道会の会長をされていた滝沢寿雄先生に例会があるから出てみないかと誘われるままに道衣と袴を着付けていただき例会に参加させていただきました。

結果はまぐれ中りで20射7中でした。それから気を良くした私は夢中

になりました。私は本来積極的に人の輪の中に入れるような性格ではなくどちらかと言うと引つ込み思案の方でしたが弓道をするようになってから講習会や射会に参加していくうちに大勢の方々を知り合い友達もできました。弓道をやっていたからこそだと思っています。

また一昨年には年輪ピックに出場できることになり、和歌山大会に参加させていただきました。結果は、決勝トーナメントにあと一射及ばず残念な結果でしたが一緒に参加された先生方と楽しい、大変貴重な経験をさせていただきました。

私はまだ現役で勤めています。家事や田畑の世話をしながら、稽古もしたいし射会にも出たい、審査も受けなければと慌ただしい日々ですが、あと何年弓道を続けられるのか解らないけれど動けるあいだは頑張ってみようと思っています。



弓仲間紹介

「飯田下伊那弓友会」祝射会

常盤三男

令和二年初頭、感染拡大したコロナ感染症で、生活様式弓道事業も一変した一年でした。高い感染レベルの県下も幸い直近でレベル一に下がり、ワクチン接種も一部始まりました。

飯伊地区も例外なく市有施設閉鎖にて、二度にわたり市営県営弓道場も使用禁止措置が取られました。毎月行っている例会にも影響が出ました。

そんな中、令和二年十二月五日午後半日となりましたが、感染対策を踏まえて二年度飯伊祝射会(兼定例射会)を開催しました。仕事上コロナ禍で参加できない方もおられました。開催できたことは喜ばしいことと思えました。

初めに藤澤会長と春の叙勲を受けられた松島貞治先生による二人一時的、続いて参加者全員の祝射。答礼射では二年度に昇段された初段三名、二段二名、参段五名、四段二名の方。そして、卒寿を迎えられた篠田先生に立



射礼を披露していただきました。松島貞治先生は永く六期にわたり泰阜村振興を舵取り尽力され、また忙しい中での中学校弓道授業をご指導。本の「安心の村」は自立の村を執筆され、同年国・公共に対しての功労にて旭日小綬賞を受賞されました。篠田知博先生は飯伊弓友会にも多大なるご尽力をいただきました。私共の心の拠り所の存在であり指針です。また健康を維持され続け、弓を引く姿には平伏の限りであります。本日掲げられた珠幕は傘寿に寄贈されたものであります。

答礼射のあと、時間制約の為、四つ矢三回個人戦を行い、見事篠田先生は十位内に入賞されました。コロナ禍の中、祝射例会ができましたことに藤澤会長はじめ皆安堵と充実感を覚えたのではないかと思います。

す。掲載の写真はその時のものです。これから新年度が始まりますが、コロナ感染症が一日も早く収束し、平穏な日々が早く来ることを願うばかりです。皆様方も健康等ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

大会結果

第39回全国高等学校弓道選抜大会

○令和2年12月25日(金)・26日(土)
岐阜メモリアルセンターで愛ドーム

■団体の部

▲女子

5位 飯田女子

表彰

○令和2年度

長野県スポーツ協会より表彰

有功章(個人の部)

松島 貞治(教士六段、飯伊支部)

宮坂 博之(教士七段、諏訪支部)

有功章(団体の部)

特定非営利活動法人

下諏訪町スポーツ協会弓道部



令和2年度長野県スポーツ振興功績者表彰式
国民体育大会等における功績者への有功章贈呈式

春の叙勲

旭日小綬章

長野県弓道連盟会長 松島 貞治 (元泰阜村村長)

— 経歴 —

泰阜村村長を24年余り務めた。

「福祉の村」を目指し、村の診療所に常駐の医師を置くなど、在宅福祉・地域医療に力を入れた。財政難や過疎少子高齢化など難題解決に取り組んだ。訪問診療の核となる村診療所の医師を確保し続けるなど在宅福祉を推進してきた結果が認められた。

お詫び

受章記事の掲載が遅れておりました。松島先生、及び関係各位には大変ご迷惑をお掛け致しましたことをお詫び申し上げます。
広報部

速報

全国オンライン弓道交流大会 準優勝!!

3月21日に行われた同大会で長野県が

準優勝致しました。

詳細は次号(78号)で!!

訃報のお知らせ (敬称略)

長野県弓道連盟 飯伊支部

齊藤 実(85歳)

令和2年12月29日(火)ご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、お知らせ申し上げます。

わいわい

アイドル業界ではよく「卒業」という言葉が使われますね。グループを脱退するときなんかに使われる表現です。これってなんか良い言葉だなと僕は思ったりもしています。卒業と言って最初に思いつくのは学校ですよ。そもそもアイドルの卒業も、学校の卒業から来ているのでしょうか。ではそもそも卒業って何なんですか。コトバンクで調べてみると、

1 学校の全課程を学び終えること。「大学を卒業する」

うーむ、ざっくりですね。「決められた課程」が達成したという意味合いでしょうか。アイドルの卒業は、決められたコースを修了した。ほんとかな? これだけだとなんだか腑に落ちませんが...

実はもう一つ記載があります。

2 ある段階や時期を通り過ぎること。「ボウリング通いはもう卒業した」

これはなんかしつくり来ますね。ある段階や時期、なるほど、これを通り過ぎると。確かに、人生は二定ではありません。んし、いろんな段階、フェーズが存在しています。その時期により必要なものも求めるものも違うでしょう。時代背景にも影響を受けるとも思います。なるほど、ということとは...

「辞めました」と言うのと、どこか後ろ向きな響きが漂う部分があると思います。でも、ある段階を超えて次のステージへ行く。これならいい響きじゃないですか。つまり私は「6年間お世話になった広報部を卒業した」んです。

いいですね、辞めた、じゃなくて卒業ですよ。卒業生とかいつたらなんだかちよっぴり崇高感が増した気がしなくもない。もちろん、すべての辞めるが卒業とは呼べないと思えますけど、何か得るものがあった、「前向きな辞める」であれば、それは卒業と呼んでもいいんじゃないでしょうか。皆さん、本当に大変お世話になりました。

前広報部長 荒川 保